

平成 29 年 5 月 23 日

平成 29 度 第 1 回
学校関係者評価委員会／教育課程編成委員会 報告書

作成者(書記)：平賀

日 時	平成 29 年 5 月 23 日(火) 15:00 ~ 17:30
場 所	札幌ベルエポック美容専門学校・校長室
出席者	<委員 ※は教育課程編成委員も兼務> ※岩川 祥哉 業界代表 (札幌美容協働組合 副理事長) ※打矢 憲弘 業界代表 (有限会社うちや美容室 代表取締役社長) 鈴木 康弘 高校代表 (北海道芸術高等学校 法人本部長) 西村 知子 地域代表 (東北第 2 町内会 会長、西村ビルオーナー) 鹿又 利賀子 保護者代表 (美容師科在校生保護者) 佐藤 明彦 卒業生代表 (平成 15 年度本校卒業生 1 期生) ※今回佐藤氏も教育課程編成委員会に参加していただいた。
	<学校側参加者> 藤井 英嘉 札幌ベルエポック美容専門学校 学校長 下山 記弘 札幌ベルエポック美容専門学校 事務局長 藤本 佳奈 札幌ベルエポック美容専門学校 教務部長 大澤 慶太 札幌ベルエポック美容専門学校 美容師科学科長 平賀 直子 札幌ベルエポック美容専門学校 学生サービスセンター

学校関係者評価委員会

藤井学校長挨拶
・職業実践専門課程は専門学校を 1 条校に入れるための運動の一環
・教育課程を外部から評価されたものにするためにこの委員会がある
・業界から認知された専門学校へ

下山事務局長挨拶
・職業実践専門課程(美容師科)に認定されるために 3 つの条件
1、業界のニーズを反映させる(産学連携)
2、教える人も研鑽している事(FD活動)
3、情報公開すること

H28 年度自己評価
・資料元に進行(下山事務局長)
・滋慶学園グループ 70 校
【建学の理念】実学教育、人間教育、国際教育
【4 つの信頼】学生の信頼、保護者の信頼、高校からの信頼、業界の信頼

・将来構想を抱いているかの部分の自己評価が低い。立てた目標と実績に差があり、緻密な計画が求められている。特に近年は新入生の確保に苦戦、それでも学校のブランド化を図るために努力している。

・ベルエポックの特長

現場に出た実習に力を入れている。

提携先を増やしたり東京の情報も入ってくる活動も行い現場の範囲を広げている

・組織の意思決定

月1回の運営会議、全体会があり、全職員の意思統一を図っている。

また、各プロジェクト等もあり意思決定と職員の成長の機会としている。

教育活動

学生便覧を元に進行(藤本教務部長)

・入学生の性質が毎年変わっている。どんな学生に対しても受け皿ができるようなカリキュラム・学校にしていきたい→まだ5は付けられない
教科書通りの学びだについていけない

・スタッフの勉強会が少ないので研修を行う→実施→どうだった振りかえりまで力をいれたい。

・教育成果 28年度

395名 退学者は例年より多いがしっかりと学生と向き合った結果の数字。その分転科が少なく、退学+転科のトータルでは人数は減っている。

反省としては、目的意識、細かなフォローが足りなかった

問題学生の発見をスピーディにできていない現状、成長しているという自覚を与える為に褒める、諭す。

・国家資格の結果(28年度)

美 70名 97.2%

Wスクール 9名 100%

【全道で1位の合格率であった】

筆記での不合格がいる現状不合格者は必ずフォローする

・就職 28年度

卒業生 200名 就職希望 182名 内定者 177名

第1専門職への内定 175 名

・離職率 28 年度

H27年度卒業生 20.9%台の課題

奨学金を返しながらかけるマネー教育の強化

奨学金の利用学生およそ 7 割

佐藤様 ベル卒業してすぐ退職、2 年間フリーター、アルバイトを経験した。様々なアルバイトをして辛いことは辛い、楽しいことは楽しいと気づく。2 年間のブランクがあったが美容師への復職を決意。しかし就職活動に苦戦。20 件以上電話。同級生が働いているサロンでの就職。師になる人、周り、自分の気持ち大切。

・学生支援

スクールカウンセラーを含め担任とフォロー

学生寮、寮長と学校の連携

キャリアセンター 就職の相談

学生サービス お金の相談

保護者様とのつながりのために学校便り作成

教育環境

・国際教育（海外研修）もテロの影響で参加者減少
代わりに東京研修を実施した。

学生募集

H29 入学者 184 名 美容師科 81 名
厳しい時代になっているが、1 から学校のブランド化を考え、昨年から実行している。その成果が出始めている。

法令遵守

・北海道庁による指導調査 28 年度 10 月に実施。無事に終了した。

社会貢献

・町内会、お花植えゴミ拾い実施
・学生サロンの実施で地域の方を巻き込んだ社会貢献を実施。

28 年度重点課題

・現場で生きる力を身につける
→核を 28 年度で作り、見える化して拡散させていく。
・コンプライアンス
→法令遵守

委員からの意見

鈴木様

教育活動、成果ともとても充実している
離職の理由を可能な限り追求したらいいのではないか
それは今後の対策立案の参考になるのではないか

岩川様

退学率にフォーカスすると、目的を持っていなかったり、向いていないと感じる学生が多いのではないか。美容師という職業の魅力を伝える
国家試験対策のみではなく、現場に出て行く学びが他校と比べて素晴らしい。

離職率の問題は、教える側が我慢することも大事。自分は教える側のスタッフに我慢をさせて成長を見守る期間を長くしている。自分達の時代との比較をしないことも大事。

店側のチームワークの問題もある。店のチームワークがいい時期に入社した職員は辞めないで、大きく影響していると思う。

西村様

私は学校運営は専門ではないが、今回学校のいろいろな現状を知る事ができた。学校は学生を細かく見ていると感心します。

また、卒業しても見守るという体制ができている。

近隣はマンションが建って人口が増えているので、

若い世代の移住と共に小学生がとても増えている。子供達の

職業意識を高めるためにも地域との連携は今後重要になると思います。

今回、学校がよさこいのヘアメイク等行っているなど知らなかったのもっと情報公開をして地域とも交流を図ると良いと思いました。

鹿又様（美容師科2年生保護者）

姉→就職が無事に決定。国家試験も合格した。

妹→在籍中悩んだこともあったが、現場実習などで活動する場が多いと学校が辞めないのではないか。娘は学校開放制度を利用して、休みの日も学校に来て練習をしている。

離職率については、卒業後は特に横のつながりも大切。卒業生同士の情報交換をできる同窓会活動が活発になると良い。

打矢様

学生時代に奨学金を受けていた卒業生が就職後に返していけるか懸念している。経済的理由と就職活動は切り離して考えられないと思う。

学生指導では、教務部長の話しにあった「褒める、諭す」がすごく大切だと思う。

佐藤様

奨学金を受けている学生の割合（7割）に驚く
美容師はスタイリストになるまでの時間がかかるので返していくのが難しい。ベルエポックは、他の学校よりも実践授業が多かったのも、私はベルに入学して良かったと思っている。

教育課程編成委員会

美容師科 国家試験合格室 97.5%（全道1位の実績）
2名筆記で不合格だった。実技は全員合格で、安定してきた。
低学力者対策と全体の出席率向上が課題。

安易な転科を行わなかったため数字が悪化しているが、全体的には改善している。1年生前期で退学の原因ができてしまう、半分以上が男子なので細かいケアを行なっていきたい。

→美容師科を改善すれば学校全体の数字は必ず良くなる。

方針として「向いていない、ついていけないをなくす」という考えで愛情を持って学生に接していくことを職員間で共有している。

また、去年の教育課程編成委員会でご指摘いただいたパーマ技術の向上を特別授業で組み込んでいきます。

討議

佐藤様

私の企業では、褒める、認める、振り返りを大事にしていて、自分の入社当時と比べる「褒めシート」を導入している。

2つ褒めて1つアドバイスを送る→「2ストライク1ボール」
という事を心がけている。

2年学校に通って、就職後3年間アシスタントとなると計5年間になる。それは長いし、美容師の仕事の楽しさが感じづらいのが業界の現状である。それを打破するために今、1年間でカットモデル、Jrスタイリストになれる教育を実行している→驚速教育

この教育で、入社時には新入社員が髪の毛を切ることを集中できるような教育を作り、自分でお金を稼いでいるという実感を早くにもてるようにと考えている。

美容師実践科の考え方、カリキュラムがとてもいい。
サロンの空気感を感じて会社からも必要な人材と認められていて、その実感もある。実践科を選ぶ学生は意識が高い。

下山事務局長

自己肯定感が高める教育、指導が大事と考えている。

打矢様

ベルエポックさんの教育は、かなり高い水準まできている。
ここまできたら矛先を変えてみるのはどうだろう。例えば男子が多いのであれば体育などやってみたらどうか。また、最初から手先の器用な女子との差があるとはっきり話してあげて、女子と比較して「むいていない」と感じる事がないようにする。カリキュラムの中に「息抜き」できる時間をいれる。勉強できなくても他で尊敬されたりする機会を作る。など。

岩川様

こまめにできる達成感を祝ってあげるのが学生の自信になるのではないか。先輩が後輩を褒めるシステム作ってみては。色んな学生が輝けるストライクゾーンを9個作る。

例えば、自分の企業では「手作り弁当チャレンジ会」を実施している。スタッフの意外な才能を見つけられる。息抜きのバリエーションを増やすと良い。

佐藤様

卒業生として言えるのは、在学中の学校が本当に楽しかった。
自分は欠席が多かったが、友人が助けてくれた。自分は1期生だったので先輩がいなかったのが同級生の支えが励みになった。
また、授業で現場の先生から褒められた一言を今でも覚えている

岩川様

テーマを絞ったコンテストを実施してはいかがだろうか。
例えば、ストリート系、〇〇系などの狭いテーマで競う。
賞は色んな学生が表彰を受けられるように、たくさんあっていいのではないか。人材育成が目的なので企業も協賛してくれると思う。

大澤学科長

コンテストは普段の講師以外の審査員を今後招聘していく。その審査員が

らのフィードバックを必ず入れるようなものに変えていく。クリエイティブではなくストリート系をテーマとして行なってみたい。

藤井学校長

今日は非常にいい討論でした。美容師が仕事の中で必ず必要になるコミュニケーションや、接客力の中で、「しゃべり」をどうやって教えたらいいいのか。形式的な言葉ではなく、とっさに出る言葉をどう訓練したらいいのか。それを教えていくためには、今学校が取り組んでいる現場と学校が繋がるのが大事であると感じた。

次回予定 11月27日（月）16：00～18:00 予定
